



うえのきたしょう 上野北小だより

だい ごう
第7号 2025(R7).9.30

はっこうしゃ こうちょう たなか ともひこ
発行者 校長 田中 智彦

ぜんこくがくりょく がくしゅうじょうきょううちようさ けつか **全国学力・学習状況調査の結果から**

がつ ぜんこうく ねんせい たいじょう じっし ぜんこうくがくりょく がくじゅうじょうきょううちゅうこうじゅう けっか し
4月に全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせし
ほんねんど こくご さんすう りか きょうか じっし
ます。本年度は、国語と算数と理科の3教科が実施されました。

がくりょくじょうさけっか・・・ぜんこく ひかく 学力調査結果・・・全国との比較

	国語	算数	理科
全国比較	下回っている	下回っている	下回っている

*学校正答率が全国正答率と比較して、5ポイント差以上の上下を表しています。

ほんこう けっか じょうき けっか ぶんせき ほんこう つよ かだい きょうか あき
本校の結果は、上記のようでした。この結果を分析し、本校の強みと課題を教科ごとに明らかに
こんご じゅぎょうかいぜん い いとたん こんかい しょうかい
し、今後の授業改善に活かしていきます。その一端を、今回は紹介していきます。



國語

領域	国語
話すこと・聞くこと	下回っている
書くこと	下回っている
読むこと	下回っている
言語の特徴や使い方	やや上回っている
情報の扱い方	やや下回っている
我が国の言語文化	下回っている

ほんねんど しりょう かんじ か と もんだい
本年度においても資料1 のような、漢字の書き取り問題について
いってい せいか み あさ
ては、一定の成果が見られました。これからも朝のモジュール
がくしゅう とう しんしゅつかんじ じとう しゅうじゅく
学習「ゴールデンタイム」等で、新出漢字やローマ字等の習熟を
はか たいせつ
図ることを大切にしていきます。

つぎ しりょう か りょういき かだい
次に、資料2 のような「書く」領域に課題があることがわかりました。
ひつよう じょうほう かんけつ ぶんしょう とりくみ ひつよう
た。必要な情報を簡潔な文章にまとめるような取組をする必要が
あります。2学期には、社会見学や修学旅行を始めとする見学
がっき しゃかいけんがく しゅうがくりょこう はじ けんがく
あります。調査や出会い学習がたくさんあります。そうした機会を有効に活用
ちょうさ で あ がくしゅう き かい ゆうこう かつよう
し、与えられた条件の下で、短文に書き表す「新聞づくり」等に力
あた じょうけん もと たんぶん か あらわ しんぶん とう ちから
い おも ひ び じゆぎょう かえ ばめん
を入れていきたいと思います。日々の授業のふり返りの場面でも、
もじいいない とう くふう じぶん かんが
「50文字以内にまとめる」等の工夫をすることでも、自分の考えを
か あらわ くふう など こうか きたい かんが
書き表す工夫をする等の効果が期待できると考えています。

相手のアーティストのみに合わせて、もようを遊び、おくることができます。

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく
感じます。

資料 1

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物

※上の郵便用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から候補まで書きましょう。どちらうで行を変えないで

続けて書きましょう。

資料 2

2011

さんすう 【算数】

領域	算数
数と計算	下回っている
図形	下回っている
測定	下回っている
変化と関係	下回っている
データの活用	下回っている

資料3は、伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見ています。数量関係は、数直線図や線分図といった図を活用することで関係性をつかみやすくなります。今後も授業の中で、具体操作を多く取り入れ、図等に表すことで関係がつかみやすくなることを実感させていく必要性があります。そうすることで、家庭学習等でも子どもたちが自発的に図等に書き表す姿につながるように、今後も粘り強く授業改善に努めます。

理科

領域	理科
「エネルギー」を柱とする領域	下回っている
「粒子」を柱とする領域	下回っている
「生命」を柱とする領域	下回っている
「地球」を柱とする領域	下回っている

資料4は、「エネルギー」を柱とする領域の問題です。電気の回路の作り方にについて、実験の方法を発想できるかが問われています。理科の授業では、これまでにも実験・観察を柱にして取り組んできました。今後も、こうした活動を主軸に据えながら、考えた仮説と実験等の結果の違いにどんな原因が考えられるかといった、考えを構築する時間を大切にする必要があると考えられました。そのためにも、授業中の発言が重要なため、自らの考えを表出したくなるように授業の形態を改善していく必要があります。授業の導入部分から、子どもたちが課題に対して前のめりになるよう提示の仕方などにも工夫を凝らせるように取り組み続けていきます。

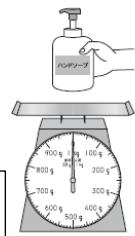
この調査は、受験用の問題とは趣旨が違い、子どもたちがどのように学びを構築しているかを把握し、分析結果から授業改善につなげていくことを目的の一つとしています。今後の授業改善につながるように、研修等で論議を深めていきます。なお、掲載した問題文が小さくなってしまい、申し訳ありません。HPにも、この学校だよりを掲載しておりますので、PCやスマートフォン等で拡大してご覧ください。よろしくお願ひいたします。

(2) 学校の手洗い場に、別の容器に入っている使いかけのハンドソープがありまます。次に、あさひさんたちは、そのハンドソープを空になるまで使うどちら、あと何グラムすることができるのかを考えています。



あさひ 新品だったらハンドソープの液体が何mL入っているのかは、はっきりわかるけれど、使いかけのハンドソープの液体が何mL入っているのかは、すぐにはわかりません。

かくさん ハンドソープの液体の量をはかるって調べられないでしょうか。



資料3

